

JAきみつの概況

ディスクロージャー誌 2024

— 抜粋内容 —

1. 事業の概況（2023年度）
2. 農業振興活動
3. 地域貢献情報

1. 事業の概況（2023年度）

概況

長期化した新型コロナウイルス感染症については、5類に移行され経済活動が正常化の方向へ徐々に進む一方、ロシアのウクライナ侵攻に加えて中東情勢の悪化により、食料・資材・原油など多くの分野での価格高騰に農家もJAも厳しい経営を余儀なくされました。金融面では、記録的なインフレを抑え込むためアメリカは、急速な利上げを行う一方で、日本は長期金利の抑制を続けた結果、円安が進行しました。しかし、その後一転、日銀は長期金利の上限引き上げを容認したため、債券価格の下落を招いています。また、農業分野においても、肥料・飼料等の生産資材価格が高騰・高止まりし、農業を経営する組合員の皆様には厳しい状況が続いております。

JAきみつでは、持続可能な農業の実現に向けて、国や県の肥料高騰対策支援事業の窓口となり申請手続きを行いました。また、持続可能な経営基盤の実現に向けて、組合員との対話を基本に、JA自己改革に取り組みました。なお、組合員・利用者皆様へのサービス維持と強化のため移動金融購買店舗車ならびに農機ドクターカーの運用を開始しました。

信用事業

信用事業は、各種キャンペーン・年金・給与振込口座獲得運動に取り組んだ結果、個人貯金の残高は、1,833億5千万円となり、計画を7億8千万円上回りました。貸出金については、農業融資・住宅ローンを中心とした取り組みと地方公共団体への貸出によって、残高は332億円となり、計画を9億8千万円上回りました。また、組合員の資産形成と運用の提案として、投資信託等を扱う複合渉外による新NISAへの提案活動を積極的に取り組みました。

共済事業

共済事業は、組合員・利用者皆様の満足度向上に向けて、コンプライアンス態勢の徹底を図り「ひと・いえ・くるま・農業」への提案力を強化すべく、一般職員による情報提供制度から得た情報に基づき、複合渉外による保障点検「あんしんチェック」を実施し、多様化するニーズに合った提案活動を行いました。年間目標には届きませんでした。

農業関連事業

販売事業における令和5年産米の実績は、集荷目標数量を150,000俵（非主食用米を含む）とし取り組みましたが、集荷実績数量は142,754俵と目標を下回りました。販売においては経済活動が正常化に向い、需要の増加を要因に販売金額は大きく上回りました。花卉については、高温の影響によって出荷数量の減少や正品比率の低下を招き前年を下回りましたが、野菜・果樹は、出荷量及び販売価格も順調に推移し前年を上回りました。購買事業は、生産資材・生活物資ともに前年を下回りました。

生活関連事業

燃料事業は、昨年に続きLINE登録及びQRコード決済の普及拡大等により、前年を上回りました。自動車事業は、新車販売が順調に推移し前年を上回りました。

教育・広報

JA広報誌「みずき」はJA事業や身近な情報、地域のニュース等を提供し、より親し

みやすい紙面作りに努めました。また、食の安全・安心に関わる情報、農業・JAの将来を左右する農政課題等を明確に伝える為、家の光と日本農業新聞の積極的な普及活動に取り組みました。この結果、年度末の購読部数は家の光566部（普及率5.50%）、農業新聞570部（普及率5.50%）となりました。

損益

当組合の財務状況について、令和5年度の事業計画及び「第八次経営刷新3カ年計画」の実践に取り組み、事業利益は2億6千万円となり、計画を9千万円上回りました。経常利益は4億2千万円となり、計画を1億1千万円上回りました。そして、当期剰余金は2億7千万円となり、計画を4千万円上回りました。

組合員加入促進および増資運動等により自己資本の増強に取り組んだ結果、当期の自己資本比率は12.30%（前年度対比0.33ポイント増）となりました。

また、不良債権処理を進めた結果、不良債権比率は0.55%（前年度対比0.24ポイント減）となりました。

2. 農業振興活動（2023年度）

出前授業で味噌づくりを指導

— 農業体験を通じて —



1月25日 君津市農業農村活性化協議会は、川崎市立川崎高等学校附属中学校1年生120人を対象に「味噌づくり教室」を開きました。生徒たちが農業体験を通して栽培した小糸在来大豆を使用しました。講師を務めたJA女性部員、職員らが丁寧に指導しました。

熊本県の農業関係者が「カラーの里」を視察

— JA研修施設「カラーの里」 —



2月7日 JAの研修施設「カラーの里」を熊本県の農業関係者が視察に訪れ、JAの大古政昭常務、小糸花卉園芸組合の長田英二組合長、君津農業事務所、JA職員らが対応しました。生産者は場も訪れ技術や担い手対策など活発な意見交換が行われました。

ブルーベリーの剪定を学ぶ



— かずさブルーベリー研究会 —

2月24日 かずさブルーベリー研究会は、富津市亀田のほ場でブルーベリーの剪定講習会を開き、会員14人、君津農業事務所、JA職員らが参加しました。

当日は、同研究会の会長であり、一般社団法人日本ブルーベリー協会の副会長で認定栽培士である遠山克巳さんが講師となり、交差する枝や内向きに伸びる枝を実際に剪定しながら、丁寧に説明。会員らは熱心に耳を傾けながら技術を習得していきました。

原木シイタケ植菌体験



— 椎茸部会 —

3月4日 椎茸部会は、味楽園さだもと店で原木シイタケの植菌体験を行いました。当日は、同部会の重田和助部会長をはじめ部会員6人が、16組の体験を指導しました。体験者は、ドリルの使い方を教わり、位置を確認しながら穴をあけ、ほだ木の管理場所や収穫までの管理・方法などを熱心に質問しながら、丁寧に種駒を打ち込みました。

味楽園さだもと店11周年記念感謝祭

— 感謝を込めて —

3月12日 味楽園さだもと店は11周年記念感謝祭を開きました。開店前に、同直売所の販売に貢献した生産者や出荷日数の多かった生産者へ感謝状を贈りました。店頭では、君津市産コシヒカリの一升マスすくいどりや富津市産のサツマイモを使用したチップス、天羽漁業協同組合と連携し鮮魚など海産物の販売も行い多くの来店客でにぎわいました。



「農業」や「食」について理解を深めよう！！

— あぐりスクール田植え体験 —



4月27日 小櫃小学校4～6年生76人は、田植え体験を行いました。当日は、地元農家が協力して児童に田植えを指導し、田んぼに稲を植えていきました。児童たちはアイガモ農法で稲刈りまで栽培を観察し、秋には籾摺りや脱穀にも挑戦しました。

プリンスメロンPR販売

— 「味楽園」2店舗でPR —

5月20日 富津メロン部会は、富津経済センター富津集荷場で「プリンスメロン査定会」を開き、同部会の林泰弘部長をはじめ部会員、市場関係者、君津農業事務所、JA全農ちば、JA職員など18人が参加しました。当日は、販売情勢、生育状況今後の管理、選果選別の基準や出荷時の注意点について説明。現品査定では、市場関係者が選んだメロンをカットして品質を確認。糖度は17度と高く、出来の良さを証明しました。



5月下旬まで、東京や千葉の市場へ出荷し、農産物直売所「味楽園」2店舗でも販売しました。

海ほたるでトップセールス

— 袖ヶ浦農産物マルシェ —



7月8日 袖ヶ浦市農畜産物直売所ゆりの里は袖ヶ浦市と、東京湾アクアラインの「海ほたる」パーキングエリアで、農畜産物のPR販売を行いました。当日は、袖ヶ浦市の粕谷智浩市長、JAの江澤武夫組合長が参加しました。来場者に「袖ヶ浦市産の農産物はいかがですか」と声をかけながらお勧めの食べ方などを説明。購入者には、袖ヶ浦市内の観光施設の割引券やゆりの里で製粉した袖ヶ浦市産の米粉をプレゼントしました。

栽培知識を高めて生産しよう！



— 抑制トマトの栽培講習会 —

7月13日 抑制トマトの栽培講習会を富津経済センター富津集荷場で開き、生産者、君津農業事務所、JA全農ちば、JA職員など16人が参加しました。参加した生産者は、栽培方法など熱心に耳を傾けていました。

富津市の「にじのきらめき」ほ場で検討会

— 業務用水稲研究会 —

7月13日 業務用水稲研究会は、富津市の「にじのきらめき」ほ場で現地検討会を行い、君津農業事務所・JA全農ちばの担当者が、稲の生育状況について確認し講評しました。

終了後には、大佐和支店で今後の栽培管理などについて検討しました。



米の出荷は全量JAへ！

— 令和5年度米初検査と目合せ会 —



8月14日 平川経済センターで令和5年産米の初検査を行いました。

当日、江澤武夫組合長をはじめとする常勤役員、JA全農ちばの齋藤宏紹米穀部長、農産物検査員ら21人が集まり、目合せ会も開きました。

検査場には、主食用米「ふさおとめ」4,617袋、「ふさこがね」100袋、飼料用米15万9千kgが出荷されました。検査員たちは、水分、整粒歩合、被害粒などを確認しながら検査を行い、主食用米は1等となり、飼料用米は全量合格となりました。

JAは、生産者に契約数量以上の出荷を呼び掛け、有利販売を目指しています。

食農体験の積極的な提供



— 小糸在来®オーナー引き渡し —

10月13日 上湯江地区小糸在来®オーナー制実行委員会は「小糸在来®(エダマメ・大豆)オーナー引渡し」を行いました。同委員会は、「芳醇な香りと豊かなうまみ」を多くの方々に直接届けようと、6月に1,500区画(1区画約17㎡)のオーナーを募集し、会員8戸で栽培管理をしてきました。当日は、多くのオーナーがほ場を訪れ、秋のエダマメ収穫を楽しみました。

高校へ農業機械を寄贈



— 県立君津高校、君津青葉高校 —

11月30日 JAとJA共済連千葉は、県立君津高校と君津青葉高校に農機を寄贈しました。

これは、JA共済連の地域・農業活性化積立金を活用し行われたものです。

(写真：県立君津青葉高校)

JA きみつ農業まつり開催



— イオンモール富津 —

12月3日 農業まつりは、JAの農業振興と収穫の喜びを消費者とともに分かち合い、触れ合いを通じて相互の連携と農業共同組合運動の主旨をご理解いただき、明日の営農と暮らしを守ることを目的としてイオンモール富津で開催しました。農産物品評会や大抽選会、米消費拡大、演芸など4年ぶりに行い大規模なイベントとなりました。

3. 地域貢献情報

I 地域貢献に関する取組み

○協同組織の特性

当JAは、君津市、袖ヶ浦市、富津市を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織です。

当JAの資金は、その大半が組合員の皆様などからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当JAでは資金を必要とする組合員の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当JAは、地域の一員として、組合員及び地域住民の信頼と支持を得ながら、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

また、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助け合いを通じた社会貢献に努めるとともに、事業基盤の維持・拡大に取り組み、新しい時代に対応した経営・意識・事業の改革に取り組んでいます。

組合員数 22,079人 出資金 3,965百万円
(うちその他の出資金) (1,160百万円)

1. 地域からの資金調達の状況

- (1)貯金積金残高 203,371百万円(うち定期積金 2,238百万円)
(2)貯金商品 ・高齢者優遇定期貯金「寿500」、同定期積金「長寿300」
・退職者優遇定期貯金・共済金定期貯金
・知人囲会定期積金・子育て支援金利上乘せプレミアム定期積金

2. 地域への資金供給の状況

- (1)貸出金残高 23,419百万円(組合員等)
3,517百万円(地方公共団体等)
6,263百万円(その他)
- (2)制度融資取扱い状況
- ① 農業近代化資金 786百万円(132件)
(資金の概要) 設備投資等に必要な資金を融資する農協等民間金融機関が融資する中期の資金で県ならびに市が利子補給する資金
- ② 農業改良資金 -百万円(-件)
(資金の概要) 新たな農業部門を開始したり、新たに加工部門に進出するなど新作物分野・加工流通分野・新技術にチャレンジする際の利用に適した中期の資金で県の資金を原資とする無利子資金
- ③ 就農支援資金 0百万円(1件)
(資金の概要) 新たに農業を開始しようとする者(認定就農者)が就農のために研修等の受講、就農に際しての準備、経営開始時の設備投資等に必要な資金を融資する国・県等の資金を原資とする無利子資金
- ④ 家畜飼料特別支援資金 -百万円(-件)
(資金の概要) 畜産農家が配合飼料の価格高騰により、経営の継続に支障をきたしている時に、飼養技術の向上等による生産性向上を図るまでの間、飼料購入に要する経費を融資する資金
- ⑤ 農業経営負担軽減支援資金 10百万円(1件)
(資金の概要) 農林公庫資金、農業近代化資金、農業改良資金等の制度資金を借り換えるための民間原資の資金で都道府県(国からの補助金を含む。)が利子補給する資金

(3) 融資商品

- ・住宅資金 ・生活資金 ・教育資金 ・農外事業資金
- ・賃貸住宅建設資金 ・水洗トイレ資金

3. 文化的・社会的貢献に関する事項（地域とのつながり）

(1) 文化的・社会的貢献に関する事項

- ・税務相談会開催 ・法律相談会開催
- ・年金相談会開催 ・集団健康診断及び健康相談
- ・中学生、高校生職場体験協力(インターンシップ)
- ・日本赤十字社の献血への会場提供および参加

社会貢献活動

(君津市学校給食に新米寄贈)



地域ふれあい活動

(峰上支店ふれあい市場)



(2) 利用者ネットワーク化への取り組み

- ・知人囲会（会員数 236人）
（会員資格） 定期積金(契約期間3年、契約額48万円以上)の契約者で入会を希望する方
（活動内容） グルメツアー、観劇ツアー等の親睦
- ・年金友の会（会員数 13,959人）
（会員資格） 公的年金の受給口座を当JAに指定している方
（活動内容） 親睦旅行 グラウンドゴルフ大会

(3) 情報提供活動

- ・広報誌「みずき」年12回発行
- ・ホームページURL <http://www.ja-kimitu.or.jp>
- ・日本農業新聞普及活動

(4) 店舗体制

本店1 支店11 経済センター4 購買店2 介護センター1
農機統括センター1 農機整備工場1 給油所4
直売所3 葬祭センター1 葬祭場2 自動車整備工場2
不動産センター1 共済代理店28

文化・教育に貢献

(地域の方にスマホ教室開催)



交通安全教育に協力

(管内小学校新1年生にお守り寄贈)

